

事故等に関する包括的公表（令和5年6月1日～令和5年9月30日）

No.	発生年月	発生場所	種別	概要	再発防止策
2	R05.09	居室	爪剥離	<p>更衣を行った職員が、左第4趾の爪の浮き上がり及び爪周辺の腫脹、発赤、内出血に気づき、医師の指示の下、絆創膏で保護しました。</p> <p>レントゲン検査の結果、骨折の所見はありませんでしたが、皮膚科医の診察により、外傷による爪の下の血腫と皮下出血が認められました。</p> <p>受傷経緯については特定に至りませんでした。靴下の繊維が何らかの外力により、爪に干渉し剥離を引き起こしたものと考えられます。</p>	<p>靴下の装着と脱着にあたっては、爪を引っ掛けないよう、つま先を保護・観察しながら慎重に行うことを改めて徹底してまいります。</p> <p>また、素材的に引っ掛けやすい仕様の靴下の使用を避けるとともに、日常的な看護・介護の動作の中で、爪への衝撃や負荷が加わらないよう細心の注意を払ってまいります。</p> <p>さらに、巻き爪、肥厚爪、二枚爪、爪甲剥離など、重症心身障害がある方によく見られる爪の状態を、今一度職員が十分理解しケアに臨むよう、周知徹底してまいります。</p>
3	R05.09	居室	骨折	<p>日中活動で、利用者様が右手掌でタンバリンを叩くサポートを職員が行った際、腕を引く動作がみられました。その際、右手を確認したところ中指の腫脹と皮下出血が認められました。</p> <p>レントゲン撮影の結果、右中指基節骨近</p>	<p>今回の骨折部位は外的な力が加わることで受傷しやすい箇所であり、重症心身障害がある方にとっては、微小な外力によっても骨折の危険が潜んでいることを、職員が改めて理解してケアに当たることを周知徹底しました。</p> <p>特に、体位変換時に側臥位をとる場合には、</p>

事故等に関する包括的公表（令和5年6月1日～令和5年9月30日）

No.	発生年月	発生場所	種別	概要	再発防止策
				<p>位部骨折と診断し、冷湿布による保存的治療を継続しました。外力による骨折と判断されましたが、受傷経緯については特定できませんでした。</p>	<p>上肢が体幹の下敷きにならないよう注意喚起を行いました。</p> <p>なお、利用者様には右手の不随意的な動きが多くみられることから、ベッド柵に当たった際の衝撃を和らげる緩衝措置を継続して講じてまいります。</p>
4	R05.09	居室	骨折	<p>おむつ交換時に右肘関節屈側に限局性の内出血を確認しました。レントゲン撮影の結果、右尺骨骨折と診断し、シーネ固定を行い経過観察いたしました。</p> <p>発生日時の特定には至りませんでした。更衣の際の肘をひねる動作による負荷が原因と考えられます。</p>	<p>利用様個々の関節可動域の正確な把握と拘縮・変形の状況についての十分な理解のもとに、骨折リスクを念頭に置いた慎重なケアの徹底を改めて周知しました。</p> <p>また、骨折が疑われるケースでの早期発見と早期対応を図ることができるよう、十分な観察力をもってケアに臨んでまいります。</p> <p>なお、保護者の皆様とも協力しながら、サイズや素材、仕立てなどの面で、更衣時に関節部への負荷が少ない衣類の選択に注意してまいります。</p>

事故等に関する包括的公表（令和5年6月1日～令和5年9月30日）

No.	発生年月	発生場所	種 別	概 要	再発防止策
5	R05.09	浴 室	爪剥離	<p>入浴を終え、靴下を履く介助を行った際、右第5趾の爪の剥離をまねきました。</p> <p>靴下を手繰り寄せて右足を通した際、爪が引っかかる様子が感じられたため、靴下を脱がせたところ当該爪が剥離し出血している状況が確認されました。靴下の内側は、長さ2センチ程度の繊維がほつれている状態にありました。</p> <p>利用者様には止血措置を行い、軟膏塗布とガーゼによる保護を行い、経過を観察しました。</p>	<p>着用されている靴下類については、普段から内側繊維の状況などに十分注意するとともに、保護者の方と協力して爪への干渉が少ない素材の選択に一層配慮してまいります。</p> <p>また重症心身障害がある方の爪に現れる特徴的な状態について、職員が改めて理解を深め、経験が十分でない職員に対しては、ケアに際して発生が予測されるリスクなどについて個別に指導を行い、周知徹底してまいります。</p> <p>さらに、皮膚科医や整形外科医の診察を積極的に依頼するなど、多職種が連携して配慮すべきことの情報共有とケアの質向上に努めてまいります。</p>